

# 大小のメタファーに関する日仏会話コーパスの対照比較

石毛 健嗣  
(東京大学大学院)

従来のメタファー研究は、メタファーがわれわれの概念的知識の中でどのような体系を成し、どのような構造を与えているかという側面に注目することが主流であった。このような静的な知識としてのメタファー研究に対して、本発表では、メタファーのより動的な側面に焦点を当てている。あるメタファーを知っているということと、そのメタファーを用いるということは異なる次元にある。すなわち、言語の中にあるメタファーが存在しているとしても、言語を用いる中でそこにどれだけの重みを与えられているのかについては、全く別の問題として明らかにする必要があるのである。したがって、本研究の目的は、実際の言語使用においてメタファーが果たしている相対的役割を考察することにある。今回の発表では、世界中の言語で観察される主要なメタファーの一つである大小のメタファー (e.g. *grand homme* / 大人物、*une petite heure* / 小一時間など) を取り上げ、日本語とフランス語の会話コーパスの中で大小のメタファーがどのように用いられているのかを、形態・統語的側面や使用頻度・用法の対比を中心に分析していく。そして、異なる言語間で共有されているメタファーであっても、その用いられ方には大きな違いがあることを見ていく。